



リベラル群馬代表として
重責を担う4期目が始動!

CONTENTS

- I 「最後の晚餐」か? リベラル群馬目線での新年度予算の検証
- II 「新しい豊かさ」その答えは山村に。

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>(スマートフォン用)

「最後の晚餐」か? リベラル群馬目線での新年度予算の検証

プライマリーバランス
赤字転落の衝撃

大澤県政最後の予算は、「入るを量りて出ざるを為す」という財政の常道の真逆を行く内容となりました。
「入る」にあたる、税収や地方交付税などの一般財源収入が大幅に減少するなか、「出ざる」にあたる歳出規模は180億円も増額しています。際立つのは公共事業費が90億円以上も増額するという大盤振る舞いぶりです。
結果、財政の健全度を示す指標の一つである「プライマリーバランス」も、大澤県政以降初めて赤字に転落するという衝撃的な予算編成となりました。

「有利な県債」とは言うものの...

歳出を押し上げている主役が「減災・防災対策に係る県債」。国の緊急対策に「お付き合ひ」して公共事業をすると、3カ年限定で「有利な」つまり、普通より返済が楽な県債を発行できるといふものです。
今回これを149億円も発行し、本来ならばもっと後年度に着手する予定だった事業を「前倒し」して着手してしまう方が「お得」というのが県の説明です。
しかし、これだけ財政を悪化させている以上、「3カ年の所得期間」が過ぎた以降は、前倒した分の事業量を縮減しなければ財政のバランスは保てないのではないかと後藤は指摘しています。

新年度予算のポイント

ポイント① 税収等減と歳出の大幅増

- ・県税収入 ▲30億円
- ・地方交付税等 ▲42億円
- ・公共事業等に充てる県債 +137億円
- ・公共事業費 +93億円

ポイント② リベラル目線での施策

◆公共交通の再生

- ・バスのICカード化支援
- ・バス・ロケーションシステム(バスがどこに走っているのか確認できるシステム)開発
- ・BRT(高崎駅~館林駅を高速で繋ぐバス路線)2021年開通を目指す。

◆福祉政策

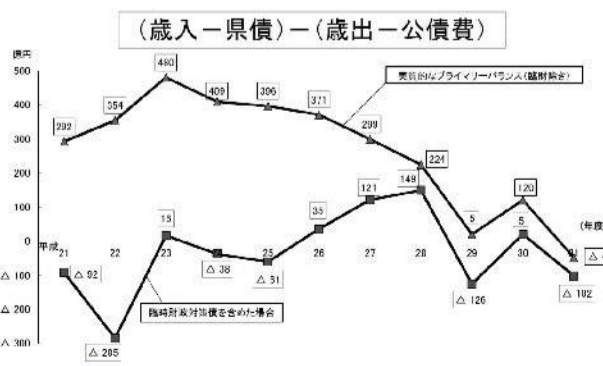
- ・児童相談所の強化(東毛地域に一時保護所増設、専門職の増員等)
- ・フレイル予防(要介護状態になるのを防ぐ)による健康寿命の延伸
- ・農福連携による障害者の活躍の場創出

◆群馬の持つ“資源”の磨き上げ

- ・山村地域の振興、移住促進
- ・東国文化(古墳等の歴史資源)のPR

プライマリーバランス(当初予算)の推移

・財源的に有利な防災・減災緊急対策に係る県債の発行、公債費の減少等により、平成31年度の実質的なプライマリーバランスはマイナス。



県債残高の推移

・財源的に有利な防災・減災緊急対策に係る県債の発行(149億円)等により、県債残高(見込)は、臨時財政対策債、それ以外の県債とも前年度に比べて増加。

